

若い力を活かす

今冬の北海道は、雪も多く、寒さも記録的でありました。例年4月下旬といえば北海道でも桜前線が上陸しているはずでした。しかし4月になっても気温も上がらず、開花がずいぶん遅れています。この冬の寒さは、北極海の氷が少なくなり、それに起因して、日本に来る寒波が多くなっているそうです。

さて、昨年の衆議院選挙で、現政権に交代しました。関心事は、アベノミクスの三本の矢で日本の経済を強くすること、そして東日本大震災から得られた教訓を踏まえた防災、減災などの施策など国民の生命・財産を守るために国土の強靱化を目指すことです。

社会資本整備の進捗とともに公共事業は無駄だと事業費の削減が続き、前政権における「コンクリートから人へ」がダメ押しとなりました。

最近の東日本大震災やトンネル施設事故などをきっかけに、国民生活にとって公共事業の重要さがやっと国民に理解されてきたと感じています。

しかし、災害に強い国にしなければという機運が高まってきているにもかかわらず、人手不足は深刻で東日本大震災の復興も思うようには進んでいない状況です。それは、周知のごとく建設業がおかれている今の状況が、若者離れにより高齢化が進み、技術者や技能者が減少したためです。

長きにわたる公共事業の減少により、安値が先行しました。その影響で技能者の収入が、ある職種では一時の三分の一となり、とても結婚して子供を育てられるような収入ではなく、職場として魅力がなくなってしまったことが一因ともなっています。

中野 淑文(なかの よしふみ)
技術士(上下水道/総合技術監理部門)

公益社団法人
日本技術士会北海道本部 副本部長
事業委員会委員長



3月に設計労務単価が、建設業の人材確保と経済対策のために大幅に引き上げられましたが、是非、今後もこの措置が長期的に続き、働きやすい環境となり、若者が増えてくることを願っています。

先日、日本酒がヨーロッパで評価を上げているというテレビ番組を見ました。蔵元の若手起用にこたえて若い杜氏が、ワインよりも料理に合う新しい酒をつくりあげたそうです。失敗を恐れぬことが新発見につながり新酒ができたそうです。若い技術者が安心して暮らせる地域・企業は、地域に根ざした産業が自立していることです。是非このようになりたいものだと思います。

公共事業はオーダーメイドです。公共事業を行うには、地域に密着した技術を確保しておかなければなりません。また、企業が技術継承を行うには、魅力ある環境をつくり、若い技術者を大事に育てて彼らに託していかなければならないと思います。

以前より、技術士の認知度が低い、知名度を上げるにはどうしたらよいかと、フォーラムなどでも議論されてきましたが、永遠のテーマと思われれます。

技術士が社会に認められるには、地域に根ざした仕事、活動を通して広く認知されることでもあります。そのためには特に若い技術士の生き生きした活躍が必須であると思います。

今年、全国大会が北海道で開催されますが、まずはこの折に、技術士が若い技術者の魅力ある仕事として全国に発信し、活躍の場を広げ、地域に貢献できる環境を創っていききたいものです。